

告発状（2016年10月3日）の特徴

2016年10月6日 更新

1. 民事訴訟から刑事訴訟へ

告発人：三宅勇次、西山 豊、西田 稔

笹子トンネルの真相を探る会（技術者や大学教授など民間個人のあつまり）

<https://www.facebook.com/groups/155854694772220/>

被告発人：7つの行政機関、企業など16人

2. 被災者9名の救済から全国8千万ドライバーの生命と安全の確保へ

3. 保守管理ミスから設計ミス、施工ミス、経営ミスへシフト

(1) 使用実績のないケミカルアンカーに材料を変更した。(ボストン事故の教訓を無視した)

(2) 信頼性が保証済みの「埋め込みボルト」と「逆ハの字施行法」を踏襲しなかった。

(3) 吊り下げ金具は2本でなく、危険な1本吊りとした。

(4) 天井板の連結が被害を拡大させた。(ボストンでは10枚落下で被災車は1台、1人)

(5) 経営者は2011年リフレッシュ計画を延期させ、その後に事故が発生した。

4. 新たな証拠

(1) ドミノ現象で天井板（138m, 345枚）が落下した理由を証明した。

<http://www.geocities.jp/ma85003/index9.html>

(2) リフレッシュ計画に150日間かかるは嘘（小仏トンネルは5日間で完了）

<http://www.geocities.jp/ma85003/sasago/kobotoke2002.pdf>

(3) 車両の天井板接触事故がアンカーの損傷を進ませた。

2005年9月、2008年6月、2012年4月に積載オーバーにより大型トラックが天井板に接触している。2005年9月の接触区間は、2012年12月の天井板崩落と一致している。2008年6月の積載オーバーの高さは4.95mとある。これは道路面から天井板までの高さ4.7mをはるかに超えている。現在、国土交通省とNEXCO中日本に問合せ中です。

トンネル天井板の落下事故に関する調査・検討委員会資料集：194、195ページ

<http://www.mlit.go.jp/road/ir/ir-council/tunnel/siryo/03.2.pdf>

「笹子トンネルの真相を探る会」について

三宅勇次（コンサルタント業 技術士 機械部門）

西山 豊（大阪経済大学 教授、専門は数学）

西田 稔（元建設会社役員）

など現在 23 名、フェイスブック（FB）は次です。

<https://www.facebook.com/groups/155854694772220/>

三宅は、福島の前災者のメーリングリスト（ML）でデブリの地下取り出しを説明した。トンネルの専門家である西田はその説明に興味があり、一緒に考えるようになり個人的な付き合いが確立した。

西田は、笹子トンネルの遺族が真相を知ることなく不利な裁判を開始していることを知っていたので、知らせたかったのだがその方法がわからなかった。

三宅は、偶然、横浜地裁の近傍に住んでおり、横浜地裁での裁判と真相の情報を西田と共有した。

西山は、2005 年イギリスのケンブリッジ大学に留学して西洋建築を目の当たりにして、トンネル構造でもっとも脆弱な部分は天頂部であることを知っていた。その天頂部にアンカーをつけ数トンもある天井板をぶら下げることで自体が設計ミスであると直感した。その後、独自に調査し、論文としてまとめた。

「笹子トンネル事故を考える—科学者の社会的責任から」『日本の科学者』2013 年 7 月

三宅は、笹子トンネルの真相を探る会の FB を設置して、公開で情報共有することになり、西山も参加するようになる。

FB の中でアクティブな 3 人（三宅、西田、西山）が情報交換、議論を行うことになり、大阪で出会い、スカイプを用いるなど、固い結束のもとに、今回の刑事告発に進んだ。

連絡先：

三宅勇次 gymiyake@e-kea.org

西山 豊 nishiyama@osaka-ue.ac.jp

以上